

(様式2)

議員行政視察報告書

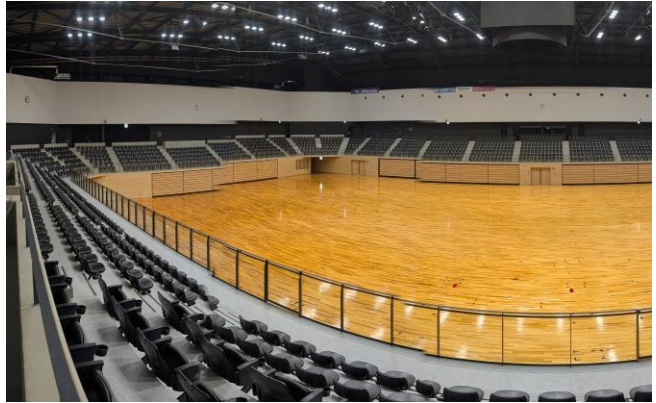
議員名	塩尻 英明
視察地	広島市
視察年月日	2025年5月27日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
ひろしま街づくりデザイン賞事業について	
＜目的＞	
広島市が行っているひろしま街づくりデザイン賞が、街並みの形成や景観等を含めてどのような効果があるのか。これまでの経緯や課題等を含めて視察を行う。	
また、あさひかわ景観賞との違いや参考になる点などを学ぶ。	
＜内容と成果＞	
戦後の経済成長に伴い都市が発展してきているなかで、広島市新基本計画において「都市美づくり」に取り組むこととなり、優秀建築物及び優秀緑化施設の表彰制度を創設した。広島豊かな自然や街並みに配慮し、良好な景観の形成に貢献するものや活動を表彰している。	
建築物（一般・個人住宅）、アート、広告、花と緑、街並み、景観まちづくり活動など多岐にわたる部門賞があり、その中から大賞や奨励賞の選考がされる。受賞者はパンフレットや公式サイトで紹介され、市民への認知向上を図っている。	
課題としては、回を重ねるごとに応募作品が減ってしまうことや予算の関係で当初毎年行っていた本事業が現在では2年に1度となるなど、財政的な面にも不安がある。ただ、予算規模としてはそれほど多額の費用が必要ではないため、市民に改めて自分たちの住んでいる街の良いもの、良いところを発見してもらいながらその連鎖を増やしていきたいとのことであった。	
右写真は副賞として受賞者へ授受している銘板。デザイン性に優れており、様々な受賞施設等があるなかで、外観を壊さず受賞施設という表示ができることも魅力の一つ。	
これまでは公共施設は対象となっていなかったが、応募の中には公共施設の他薦が多かったようで、今後は公共施設も対象とするなどの検討もしている。	
ただ、応募の半数以上が市の職員からの他薦という状況であるようで、そこは市民の方々からの応募が増えるよう工夫が必要と感じた。	
旭川においては旭川市景観賞という似たような事業があるが、開催頻度が低く、近年では開催自体がされていない。また、旭川市はデザイン都市としての取組みを進めていることもあり、広島市を参考にしながら旭川市の街並みに合う受賞事業を行うことができれば、旭川市の魅力の発見や景観の維持にも寄与するものと考えます。	



(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	塩尻 英明
視察地	滋賀県大津市
視察年月日	2025年5月28日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
滋賀ダイハツアリーナについて	
<目的>	
<p>旭川市では、現在花咲スポーツ公園の再整備や東光スポーツ公園の体育館建設等の大型事業について議論されている。近年では他都市でも大型スポーツ施設の建設が行われており、すでに運営されている滋賀ダイハツアリーナを視察する。</p>	
<内容と成果>	
<p>添付の施設案内の通り様々なスポーツを行える大型アリーナとなっており、Vリーグの滋賀レイクスターズやSVリーグ女子プロスポーツの東レアローズ滋賀が本拠地として活動している。</p>	
<p>建設については、従来の公設民営よりもコスト面で8%削減できる結論によりPFIによって民間のノウハウを活かしながら運営を行っている。ネーミングライツとして年間500万円の収入があるが、担当者は「安すぎたかもしれない」と後悔しているようだ。</p>	
<p>短期間の契約では、運営のうまみが少ないため15年間の契約にすることで事業者が投資をしやすい状況を作っている。民間のノウハウをうまく活用できていることはメリットの一つとしてあるが、プロチームとアマチュアチームのバッティングや拠点にしているプロチームの活動時期が同じためスケジュールの調整が難しいことや、大きな大会予定のみで9割が埋まってしまっているため、ほぼ固定された利用状況になってしまっている。また、他の利用方法としては熱中症対策や天候に左右されない計画を立てられるため学校の利用もされている。</p>	
<p>収支については、計画がコロナ渦前であったこともあり、全てが当初よりも上回ってしまっていることもあり、純粋に民間の収益で考えると運営は難しいようで、県の年間支出は4億7千万ほど計上している。今年度で旧県立体育館は閉館となるため、現在旧県立体育館を利用している団体等が利用できない状況が発生してしまうが、人口規模や財政状況を考えると現状でも厳しい財政状況であり、新たな体育館の建設は難しいようだ。</p>	
<p>立地としては県内の市街化が進んでいたことでまとまった土地を確保するのが困難なため現在の所在地に建設することになったが、気軽に立ち寄れるような位置ではないのが残念である。また、多いときは来場者数が5千人を超えることもあるが、十分な駐車スペースが確保できておらず、土日はバスが混雑してしまって乗車できないという問題も起きている。</p>	
<p>旭川市としては財政状況が厳しいなか、プロスポーツチームを本拠地として誘致できたとしても、継続して多額の費用を投入し続けなければならず、また、アマチュア団体への影響を東光スポーツ</p>	



公園で解消することは現実的ではなく、現在の計画を実行することは困難であるとする。

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	塩尻 英明
視察地	大阪市
視察年月日	2025年5月30日
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
<p>舞洲スラッジセンターについて</p> <p><目的></p> <p>下水汚泥については、全国的に様々な処分や活用方法などで行われている。旭川市との違い、舞洲スラッジセンターの特徴や課題について視察する。</p> <p><内容と成果></p> <p>舞洲スラッジセンターは、大阪市内8つの下水処理場から送られてくる下水汚泥をまとめて処理する重要な施設であり、最大の特徴はオーストリアの芸術家フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏による独創的なデザインで、環境への配慮や資源循環の面で多くの特徴を持っている。</p> <p>建設当時は税金の無駄遣いと批判された面もあるが、現在では観光や教育的価値、環境配慮の先進的な取り組みが再評価されている。</p> <p>環境の問題により、トラック運搬から地下パイプによる輸送を行っており、1,300℃以上の高温で溶かして固める熔融処理を行っており、これにより発生した熔融スラグという砂状の物質は建設資材として有効利用されている。</p> <p>例としては、下水管の施工時に管の基礎材として敷いたり、インターロッキングの材料として使用することで、雑草防止剤としての効果もあるとのこと。1,000℃以上の熱で溶かす時点でガラス質に変化するため、有害物質等が流れ出る心配もなく、とても有効な資源として活用されている。ただ、JIS規格に対応していないため、活用方法については幅広い活用ができていないわけではないようだ。</p> <p>その他の特徴としては、下水処理を所管しているのが建設局であるということ。平成19年に局の編成を行った際に、道路の管理と一体的に行うために建設局が所管することとなった。これは旭川市では道路工事と下水道工事を別々で行うことで二度手間とも言える工事が行われる場合もあり、旭川市と比べるととても効率的である。</p> <p>舞洲スラッジセンターは建設から20年以上が経過しており、今後の施設運営について議論がされている。大阪市の熔融処理は全国的にも珍しく、今後は処理方法も変えていかなければならないと話していたが、このスラグは資材としてとても有効な活用ができるものであり、できればその研究や検討をすべきではないかと感じた。とはいえ、それは大阪市の方針であり私がどうこう言うことではないが、全国様々な下水汚泥の処理方法があり、今までと違う処理方法を学ぶことができたことやそれぞれの特徴もあることから、旭川市にとって汚泥の有効的な利活用に繋がるよう参考としたい。</p>	

